

計画事業番号	00132	事務事業名	地域支え合い体制づくり事業	担当部署	保健福祉部 高齢者支援課	電話	2156
--------	-------	-------	---------------	------	-----------------	----	------

【基本情報】

事務区分	■自治事務 □法定受託事務		根拠法令等	介護保険法、北広島市認知症支え合い事業実施要綱			
事務事業開始年度	平成23年		個別計画等	高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画			
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	特別会計	補助単独区分	補助	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第 1 章)	支えあい健やかに暮らせるまち
	(第 5 節)	高齢者福祉・介護の充実
	(施策 4)	地域支援体制の推進
2 対象	認知症の方、認知症の予防が必要な方及び徘徊の恐れがある高齢者等	
3 目的と内容	認知症高齢者やその家族を支援するボランティアの養成、地域で認知症の理解を深めるための講座の開催、家族などからの相談のための認知症地域支援推進員の配置など、認知症高齢者を支える地域の支え合い体制を整備する。 地域支え合いセンター業務については、成年後見センターと利用者が重複することから、連携を密接にしなければならないため委託する。	
4 実施内容 (手 段)	2 8 年 度 ま で	①認知症地域支援推進員の配置(旧:認知症高齢者支え合い員コーディネーター) ②認知症支え合い員(傾聴ボランティア)の養成 ③認知症の方を介護する家族の介護負担軽減やストレス解消を図るため、認知症高齢者に対して認知症支え合い員の派遣 ④認知症の理解を広め、支え合う地域づくりの推進するため、認知症サポーター養成講座の実施 ⑤認知症の方及び介護する家族を支援するため、関係機関とのネットワークの構築
	2 9 年 度	上記事業のうち①～④については、平成28年度より社会福祉協議会に委託して実施している。 ⑤については主に市が直営で実施している。

【事業の計画・実績】

平成28年度		平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画	実績	計画	計画	計画
認知症地域支援推進員の配置 嘱託医の配置 認知症サポーター養成講座等の開催 認知症支え合い員の派遣	①委託2名:②～④の事業企画・運営 ②養成講座:1コース6日、実8人、フォローアップ講座2回/延38人 ③利用人数:実15件/延286回(訪問による認知症者の話し相手)、支え合い員登録46人 ④認知症サポーター養成講座:706人/18回	認知症地域支援推進員の配置 嘱託医の配置 認知症サポーター養成講座等の開催 認知症支え合い員の派遣 エルフィンバトンの配布	認知症地域支援推進員の配置 認知症サポーター養成講座等の開催 認知症支え合い員の派遣 エルフィンバトンの配布	認知症地域支援推進員の配置 認知症サポーター養成講座等の開催 認知症支え合い員の派遣 エルフィンバトンの配布

【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成30年度に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	今後も、高齢者が住みなれた地域で安心した生活を続けるためには、継続した取組が必要である。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			10,831		11,063		10,196		10,528	
事業額	直接事業費	国支出金	4,224		4,209		3,976		4,106	
		道支出金	2,112		2,105		1,988		2,053	
		地方債	0		0		0		0	
		その他特財	2,112		2,375		1,988		2,053	
		一般財源	2,383		2,374		2,244		2,316	
	① 合計	10,831		11,063		10,196		10,528		
人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	② 人数(年間)	0.30	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00	
	③ 1人当り年間平均人件費	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	
	④ =②×③	2,520	0	2,520	0	2,520	0	2,520	0	
総事業費①+④			13,351		13,583		12,716		13,048	

【評価指標】

指標名			単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
活動指標	①認知症支え合い事業 実利用者数/延べ利用者数	目標値		22/792	20/400	23/440	25/480
		実績値		15/286			
	②認知症支え合い事業 養成講座/フォローアップ講座	目標値		6回/2回/コース	6回/2回/コース	6回/2回/コース	6回/2回/コース
		実績値		6回/2回/コース			
③認知症支え合い事業 認知症支え合い員数	目標値		57	67	67	67	
	実績値		46				
④認知症サポーター養成講座 受講人数/開催数	目標値		-	800人/20回	800人/20回	800人/20回	
	実績値		796人/18回				
成果指標	①	目標値					
	【指標の定義(算式等)】	実績値					
	②	目標値					
【指標の定義(算式等)】	実績値						
③	目標値						
【指標の定義(算式等)】	実績値						

【評価項目】

チェック項目		評点	コメント
妥当性	・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか? ・上位の施策への貢献度は大きいですか? ・特定の団体の利益に偏っていませんか? 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	高齢化が進展し、認知症高齢者が増加する中において、住み慣れた地域で安心した生活が継続できるよう、地域で支え合う体制は必要不可欠な仕組みであることから、地域包括ケアシステムの構築に合致した事業である。
達成度	・計画どおりに成果があがっていますか? 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	介護保険サービスで対応できないところを、ボランティア等が認知症の方と家族を支援することで、安心した日常生活が送れることに貢献しており、計画どおりに成果があがっている。
成果向上	・成果が現状よりも向上する可能性がありますか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	3	地域支え合いセンターを拠点として、認知症支え合い員の派遣を行い、認知症の方と家族を効率的に支援することができ、成果が現状よりも向上する余地はないと考える。
経済性	・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	より効率的で効果的な運営を図るため、平成28年度より地域支え合いセンター業務について外部委託とした。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	<input checked="" type="checkbox"/> 法律の義務付けあり <input type="checkbox"/> 法律の義務付けなし
------------------------	--

【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	<input checked="" type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 <input type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。
-----------------------------	--